

受理年月日	令和2年12月16日	付託年月日	令和2年12月18日	所管委員会	教育子ども委員会
番号	<b>2 年 請 願 第 2 3 号</b>				
件名	安心、安全な少人数学級を実現することについて				
請願者	中央区鳥飼一丁目5-45-702 安心・安全な少人数学級を実現する会 代表 谷川 瑞恵 外 2,511人 (R2.12.16) - 4,181人 (R3.7.16)				
紹介議員	松尾[筆頭]、山口(湧)、倉元、綿貫、堀内、中山、荒木、森(あ)				
分割付託	なし				
要 旨	<p>今年9月の市議会でほとんど全ての会派の皆さんが一致して、国に少人数学級の推進を求める意見書を提出されたことを心強く思っています。</p> <p>今、学校では、海外から来る子、障がいがある子、LGBTの子、様々な家庭の事情を抱えている子などの対応に追われ、さらに拡大する貧富の格差が教育の格差をも生み出しています。まさに市議会の意見書で、子どもを取り巻く状況は複雑困難化し、学校に求められる役割はますます拡大していますと述べられたような深刻な実態です。</p> <p>これまでも先生方の長時間勤務と献身的な努力で支えられてきた学校ですが、これに新型コロナウイルス対策や、子どもたちの不安に寄り添うという新たな課題まで加わり、求められる役割を果たすにはあまりにも体制が不十分です。</p> <p>このような中、新型コロナウイルスに伴う分散登校で1クラス15~20人という貴重な経験をした教育現場からは、子どもたちの様子がよく分かり、勉強も丁寧に教えられるとの声が上がっています。子どもや親からも心通う少人数学級を切望する声が高まり、瞬く間に多くの国民、市民の間に共感が広がりました。</p> <p>全国の小中高などの校長会も、国に対し、きめ細かな指導が可能になる少人数学級の検討を求め、また、全国知事会、市長会、町村会の地方3団体は、現在の小中学校の40人学級では新型コロナウイルスの感染予防ができないとして、国に少人数学級の実現とともに、必要な教職員の加配と財政支援を行うよう求めています。これらの要望を受け、国では小中学校での40人学級の見直しも含めて検討を進めるとの考えを示しています。しかし、学校の現状は検討を待ってられない逼迫した状況となっています。</p> <p>このような中、市教育委員会が新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、2021年度に国の予算を活用して市立小中学校の全学級を35人以下にする方針を決めたことは、一歩前進だと歓迎するものです。しかしながら、その措置が1年限りのものであり、しかも教員を増やすことなく、今でもぎりぎりの教員数のままクラス数だけ増やすことだと聞き、保護者だけでなく多くの市民が不安を覚えています。</p> <p>よって、市が新年度から実施される35人以下学級が、真に安心、安全な学校づくりにつながるよう、以下の事項を請願します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 35人以下学級の実施に伴い、現在各学校に配置されている専科等の教員数を減らすことがないよう、学級増に必要な教員は正規の教員を新たに配置すること。</li> <li>2. 将来に向けて3密が避けられるようにするため、35人以下学級を単年度だけの措置にしないこと。</li> <li>3. 早急に20人程度の学級編制に移行すること。</li> </ol>				
審 査	令和 年 月 日	結 果	委員会		
年 月 日	令和 年 月 日		令和 年 月 日		
	令和 年 月 日		本会議 令和 年 月 日		

2020年 12月 16日

安心・安全な少人数学級を実現するための請願書

福岡市議会議長

阿部 真之助 様

請願者

安心・安全な少人数学級を実現する会  
代表

福岡市中央区鳥飼1丁目5-45-702

谷川 瑞恵



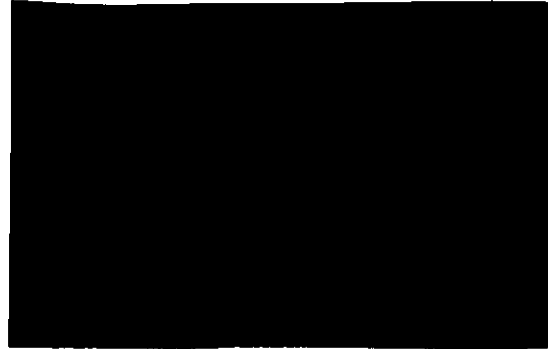
外 2511人

福岡市議会

議長 阿部 真之助 殿

安心・安全な少人数学級を実現する会

請願者代表者 谷川 瑞恵



## 安心・安全な少人数学級を実現するための請願書

### 請願項目

1. 35人以下学級の実施に伴い、現在各学校に配置されている「専科」等の教員数を減らすことがないよう、学級増に必要な教員は正規の教員を新たに配置してください。
2. 将来に向けて「3密」が避けられるようにするため、35人以下学級を単年度だけの措置にしないでください。
3. さらに、早急に20人程度の学級編成に移行してください。

(請願の趣旨は裏面に)

氏 名	住 所

#### 《 連絡先 》

新日本婦人の会 福岡県本部

電話 092-712-2905

福岡市中央区大名 2-2-51-301

取扱い団体

## 請願の趣旨

### 《福岡市議会の「意見書」に希望》

9月の福岡市議会ではほとんど全ての会派のみなさんが一致して、国に「少人数学級の推進を求める意見書」を提出されたことを心強く思っています。

### 《今、学校に「求められる役割とは」》

今学校では、海外から来る子、障がいがある子、LGBTの子、さまざまな家庭の事情を抱えている子などの対応に迫られ、さらに拡大する貧富の格差が教育の格差をも生み出しています。まさに市議会の「意見書」で「子どもを取り巻く状況は複雑困難化し、学校に求められる役割はますます拡大しています」と述べられたような深刻な実態です。

これまでも先生方の長時間勤務と献身的な努力で支えられてきた学校ですが、これにコロナウイルス対策や、子どもたちの不安に寄り添うという新たな課題まで加わり、「求められる役割」を果たすにはあまりにも体制が不十分です。

### 《心通わせられた「分散登校」の貴重な経験》

このような中、新型コロナウイルスに伴う分散登校で1クラス15～20人という貴重な経験をした教育現場からは「子どもたちの様子がよく分かり、勉強も丁寧に教えられる」との声があがっています。子どもや親からも心通う少人数学級を切望する声が高まり、瞬く間に多くの国民・市民の間に共感が広がりました。

### 《全国で高まる「少人数学級」要望の声に政府も動きを！》

全国の小・中・高などの校長会も、国に対し「きめ細かな指導が可能になる少人数学級」の検討を求め、また全国知事会、市長会、町村会の地方3団体は、現在の小・中学校の40人学級では新型コロナウイルスの感染予防ができないとして、国に少人数学級の実現とともに、必要な教職員の加配と財政支援を行うよう求めています。これらの要望を受け、国では小中学校での40人学級の見直しも含めて検討を進めるとの考えを示しています。しかし学校の現状は「検討」を待ってられないひっ迫した状況となっています。

### 《福岡市の35人以下学級…「えっ先生増やさずに？」「えっ1年間だけ？」》

このような中、福岡市教育委員会が新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、2021年度に国の予算を活用して市立小中学校の全学級を35人以下にする方針を決めたことは、一歩前進だと歓迎するものです。しかしながらその措置が1年限りのものであり、しかも教員を増やすことなく、今でもギリギリの教員数のまま、クラス数だけ増やすことだと聞き、保護者だけでなく多くの市民が不安を覚えています。

そこで、市として新年度から実施される35人以下学級が、真に安心・安全な学校づくりにつながるよう、前記の項目の実施についてお願いいたします。